

第十二章 分業と工場手工業

第3節 工場手工業の二つの基本形態——異種工場手工業と有機的工場手工業

前回の「読む会」で宿題が出ました。

宿題です!!

(その内の一つですが、)

「新しい総括機能を産みだすかぎり、例外が生ずる。」の意味

向坂逸郎訳「資本論」より

- ・……工場手工業は、……不熟練労働者の一階級を産み出す。
- ・……熟練労働者と不熟練労働者への労働者の簡単な区別が生ずる。
- ・後者にとっては修業費用は全く不要となり、前者にとっては、手工業者と比すれば、機能の低下によって低下する。いずれのばあいにも、労働力の価値は低下する。
- ・労働過程の分解が手工業経営では全然見られなかったか、あるいは同じ程度には見られなかった新しい総括機能を産み出すかぎり、例外が生ずる。
- ・修業費用の欠落または減少から生ずる労働力の相対的価値減少は、直接に、資本のより高度の価値増殖をとまなう。
- ・労働力の再生産に必要な時間を短縮するものは、すべて、剰余価値の範囲を延長するからである。

江夏美千穂／上杉聰彦訳 「フランス語版資本論」上巻 法政大学出版局発行より

- ・……マニュファクチュアはまた、どんな発達欠如をも一つの専門にしようとするようになるのである。
- ・位階制的な等級づけと並んで、熟練労働者と不熟練労働者への労働者の単純な区分が登場する。
- ・後者にとっては修業費用が消滅し、前者にとってはこの修業費用が、手工業に必要な修業費用に比べて減少する。どちらのばあいも、労働力はその価値を失う。
- ・しかし、労働過程の分解は時として、手工業の営業ではどんな役割も演じなかったかまたはより小さな役割を演じていた一般的機能を、産み出す。
- ・修業費用の減少または消滅から生ずる労働力の相対的な価値喪失は、資本にとって直接に、剰余価値の増大をもたらす。
- ・労働力の生産に必要な時間を短縮するものはいずれも、実際に、剰余労働の領域を拡張するからである。

【以上のことから】

- ・工場手工業で生まれた不熟練労働者。
- ・手工業時代では、不熟練労働者は存在しなかった。商品、生産物を作り出すのは、親方であった。この時、彼らは弟子であり、表舞台にはたてなかった。
- ・分業による労働過程の分解は、(不熟練労働者を産み出し、修業費を減少させ、労働力の生産に必要な時間を短縮させ、剰余労働時間を拡張させ、資本のより高度の価値増殖をとまなう、)労働力の価値を低下させるという機能を産み出した。

【ということを、マルクスは言っているのではないのでしょうか？】

(岡崎次郎さんの下訳が「いまいち」だったのでしょいか?)

※宿題の回答

「新しい総括機能を産みだすかぎり、例外が生ずる。」とは、【分業による労働過程の分解が、労働力の価値を低下させるという機能を産み出す。】ということではないのでしょうか？